

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171500079		
法人名	株式会社 光樹		
事業所名	グループホーム光樹の杜		
所在地	佐賀県西松浦郡有田町戸杓丙433-1		
自己評価作成日	平成27年2月1日	評価結果市町村受理日	平成27年6月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成27年2月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達の事業所は町中心部のJR有田駅より西に約1kmの閑散な住宅地にあります。H17年に有田地区初のGHとして開設され9年目を迎える事が出来ました。ホームは料亭の山荘跡地に建ち四季を感じとれる広大な日本庭園を併設し静かな環境を有しています。職員22名は利用者、ご家族様と信頼関係を築き、毎日のケア-自立支援と自己実現に取り組んでいます。特色としてターミナルケアの実施、理学療法士を招いての講習会、開設から続いている音楽クラブなどがあります。他に系列の幼稚園、保育との交流会が多くあり利用者様は子供達の来所を楽しみにされています。又、2016年は有田焼き創業400年祭りがあります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

陶磁器文化の歴史ある町で、その中心の有田駅より約1kmの山の手の住宅地に位置している。元料亭の跡地に建ち、開設より10年近く経過した2ユニットのホームである。ホームは日本庭園を有しており、また、広いウッドデッキのテラスから四季を肌で感じる事ができるよい環境にある。ホーム運営には地元の企業も関わられている。また、定期的に理学療法士を招いての研修のほか、音楽クラブ、保育園児や傾聴ボランティアとの交流、積極的な地域活動への参加など地域との深い交流がある。ターミナルケアの実績もあり、入居者が最期まで安心して過ごしてもらえるよう、管理者、職員は運営や日々のケアについて意見を出し合いながら、支援を続けられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印			項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		
	ユニット名	ユニット名			ユニット名	ユニット名	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念を施設内各所に掲げていて、毎日唱和することで、職員はこの理念を基本目標に日々取り組んでいる。	法人理念を施設内各所に掲げていて、毎日唱和することで、職員はこの理念を基本目標に日々取り組んでいる。	ホームの理念に基づいた入居者への関わりやケアが行えるよう、日々理念の唱和や会議を通して職員全体で振り返り、共有しながら、理念の実践に取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地区自治体に開設時より加入し、各行事には積極的に参加している。また班長を務めた実績もある。地域のボランティア、中学校特別支援の生徒さんとの交流もあった。	地区自治体に開設時より加入し、各行事には積極的に参加している。また班長を務めた実績もある。地域のボランティア、中学校特別支援の生徒さんとの交流もあった。	清掃や夏祭りなどの各行事への参加、地区の班長を務めるなど地域との関係を大切にされている。また、地域のボランティア、保育園との交流にも積極的に取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも相談、見学できるように施設を開放している。地域に向けてはキャラバンメイトフォローアップ講習に参加し認知症についての理解を地域に発信している。	いつでも相談、見学できるように施設を開放している。地域に向けてはキャラバンメイトフォローアップ講習に参加し認知症についての理解を地域に発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催を基本に、家族様、民生委員、社協、保険者、地域包括センター担当者、運営者、職員代表にて、意見交換し、サービス向上に繋げている。議事録は職員回覧、家族様へ配布している	年6回開催を基本に、家族様、民生委員、社協、保険者、地域包括センター担当者、運営者、職員代表にて、意見交換し、サービス向上に繋げている。議事録は職員回覧、家族様へ配布している	定期的に会議が行われ、入居者のケアやホームの取組みなどの報告や意見交換がなされ、サービス向上に繋がれている。会議録は職員全体で共有され、家族来訪時にも閲覧可能である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町主催の介護関係の会に参加をしている。運営推進会議に町担当者、地域包括担当者にも参加頂いて、指導、助言をサービスに生かしている。	町主催の介護関係の会に参加をしている。運営推進会議に町担当者、地域包括担当者にも参加頂いて、指導、助言をサービスに生かしている。	運営推進会議以外でも、必要に応じて町の担当窓口に出向いて相談や助言を求めると、協力関係を築くよう取り組まれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないケアを理解している。施設内は施錠せず開放性を基本にしている。玄関施錠は夜間のみ。身体拘束の勉強会、評価は定期的に行って、問題意識を無くさないようにしている。	全職員が身体拘束をしないケアを理解している。施設内は施錠せず開放性を基本にしている。玄関施錠は夜間のみ。身体拘束の勉強会、評価は定期的に行って、問題意識を無くさないようにしている。	身体拘束に関する勉強会や研修等を通して、職員全体で共有認識を図られている。現在、安全ベルトやミトンが必要な方が居られるが、経過を記録し、適宜、継続の可否について検討されている。	今後も定期的な話し合いや研修などを通して、拘束解消に向けたケアや支援への取組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止について定期的に施設内外の勉強会参加し、ケアに取り組んでいる。また関連し接遇についても同様の取り組みをしている。	高齢者虐待防止について定期的に施設内外の勉強会参加し、ケアに取り組んでいる。また関連し接遇についても同様の取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(たんぼぼ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度、安心サポートを利用されている方がいる。今後も相談があれば支援をしていく。	現在、成年後見人制度、安心サポートを利用されている方がいる。今後も相談があれば支援をしていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前は十分な説明を行い、施設見学も随時解放している。契約時には、利用契約書、重要事項説明書を作成し、解約を含めて説明し、同意を頂き契約を行っている。	契約前は十分な説明を行い、施設見学も随時解放している。契約時には、利用契約書、重要事項説明書を作成し、解約を含めて説明し、同意を頂き契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ロービに意見箱を設けて苦情や意見、要望を受け付けている。他には家族様の面会時に意見、要望が言いやすい関係、雰囲気作りに努めている。	玄関ロービに意見箱を設けて苦情や意見、要望を受け付けている。他には家族様の面会時に意見、要望が言いやすい関係、雰囲気作りに努めている。	家族来訪の際には、職員が必ず声をかけ、意見や要望など積極的に言ってもらえるような関係や場面作りに努められている。定期的に家族へお便りや写真などメッセージを発信されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月第1火曜日の全体会議に副施設長、管理者が参加し、職員の意見や要望の聞く場を設け、取りまとめて運営者に伝え反映に努めている。	毎月第1火曜日の全体会議に副施設長、管理者が参加し、職員の意見や要望の聞く場を設け、取りまとめて運営者に伝え反映に努めている。	毎月、ユニット会議が行われている。日々のケアから物品の購入など職員の気づきや意見が出され、運営に取り入れられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい様、労働環境作りに努力されている。給与、労働条件の改善点等は副施設長、管理者が取りまとめ、職員が働きやすい環境作りに努めている。	職員が働きやすい様、労働環境作りに努力されている。給与、労働条件の改善点等は副施設長、管理者が取りまとめ、職員が働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研究会を、つね日頃チェックして自主的に参加したり、職員一人一人の力量に合った研修の受ける機会を個々に働きかけ設けている。	外部の研究会を、つね日頃チェックして自主的に参加したり、職員一人一人の力量に合った研修の受ける機会を個々に働きかけ設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、GH協会の研修会等に参加。又、同業者との交流、勉強会に参加する機会を設け、質の向上に努める。	管理者や職員は、GH協会の研修会等に参加。又、同業者との交流、勉強会に参加する機会を設け、質の向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(たんぼぼ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居日までに、ご本人、ご家族、担当ケアマネからJ情報を収集し、不安や要望の把握に努めている。入居後はご本人の意向を中心に、職員間で情報を共有しながら安心できる環境づくりに努めている。	自己決定の出来る入居者様に対しては困っている事、要望等に耳を傾け安心出来る環境や信頼関係を築く努力をいっている。又ご家族の要望や本人の生活の様子を観察し把握に努める。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	積極的にご家族と関わり、話の中で希望や心配などの表出がしやすいように、関わっている。	本人様やご家族と会う機会を設け遠慮なく意見、要望等と話して頂ける様、配慮し不安や心配を取り除く関わりをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、担当ケアマネと話し合い、必要な支援を把握し、他のサービス利用も視野に入れ、展開に努めている。	スタッフ間の情報交換、共有である記録の充実、特にその方の個性的な記録に心がけ、次の介護展開につなげる様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かせる環境づくりや、家事や食事を共にするなど、同じ時間を過ごし助けあう事で、信頼関係を築いている。	入居者様がされる日常の家事に対して労いの言葉をかけている。又、工作やオヤツを一緒に作りお互いにアドバイスをしたり、一緒に考え調和し理念に沿っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に不安やご要望をお尋ねし、共に考え支える事に務めている。月1回のご家族への手紙にて、近況報告や、行事へのご案内をし、入居者様との絆が途切れないよう努力している。	面会時に不安やご要望をお尋ねし、一緒に考え支える事に努めている。又、行事に参加して頂ける様、日常生活や楽しい話題を1回/月にお手紙で近況報告、案内をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地元の老人会やボランティアの方々の定期的な訪問が、知人・友人としての面会につながっている。又、かかりつけの医院の継続や町内のドライブでも支援している。	地元の老人会やボランティアの方々の定期的な訪問が知人、友人と共通としている。面会時には写真を撮り渡している。有田の行事に参加し近隣とのふれあい。又、見慣れた町へ外出の支援をしている	友人や知人、ボランティアの訪問があり、入居者との関わりが継続できるよう職員が会話のフォローされている。また、自宅や馴染みの地域への外出など、馴染みの場所との関係が途切れないように支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個性や、その時のメンタル面を尊重しながら、座席等の環境をはじめ、日中の活動や会話などの工夫・援助に努めている。	入居者様の性格、個性、相性を把握し、過ごしやすい生活が出来る様な環境に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、行事のご案内や追悼号の作成、ご自宅へのお参りや訪問など、ご家族との関係を大切にしている。	行事参加のご案内やカードをお渡ししたり音楽クラブへのお誘いをしている。又、ご自宅へのお参りをし顔を合わせる対話を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望の訴えの困難な方が多い為、ご本人の表情や言動で思いをくみ取り、支援に繋げている。申し送りや記録、会議等で、情報共有、検討を行っている。	自己決定出来る方は意志を尊重している。困難な方にはご家族の情報が主になるが日常生活、ケース記録より情報を得る様に努める。	入居者の思いや意向を尊重し、支援されている。意思表示が難しい場合は、日々の関わりの中で受け取る言葉や表情などから思いを推測し、職員全体で共有し、支援を検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報の他、地域やご面会の方々との対話の中でも、情報を得、把握に努めている。	本人やご家族との会話や地域の方より情報を得る様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の情報や日課表、ケアプランをもとに、その日の心身状態と体調を、言動やバイタルチェック、排尿チェックなどで把握し、ご本人らしい生活が出来るよう支援している。	入所前の状況、心身状態を把握し、個々の日課表を作成し、出来るだけ本人らしい生活が出来る様支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や情報交換・把握と、ご家族の要望も考慮し、ケアプランの作成をおこなっている。定期的なユニット会議で意見を出し合い、見直し作成を努力している。	日々の記録、気づきの情報交換を行い把握し、ご家族の要望も考慮しケアプランの作成、見直しは定期的な会議で修正、継続出来ている。	日頃の関わりの中で、思いや意向を把握し、関係者と話し合いを重ね、介護計画へ反映させている。定期的及び必要時に評価、見直しが行なわれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿ってのケース記録が十分ではないが、日々の様子やケアの実践・結果、工夫などの個別記録やユニットノートの活用により、情報共有やサービスの提供に繋げている。	ケアプランに沿っての記録が十分でないが、日々の様子やケアサービスの実践の結果や気づきを記入し、情報交換を行い、良いケアに努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院介助、入退院時、帰宅時の支援など、ご家族の構成や遠方のご家族など状況に応じて、出来る限り柔軟な対応を心がけている。	現状では施設規則、スタッフ人員により多くのサービス提供に対応出来ないが、状況、希望により柔軟な対応も考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(たんぼぼ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や町内の敬老会、ボランティア、幼稚園の訪問、地域消防署の防災訓練により、生活の安全と充実を支援している。	地域の行事や有田町の敬老会、ボランティアの訪問により有田住人と接しながら生活出来る様に支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族やご本人の希望される病院と連携を図り、月に1回の往診や受診を継続し、適切な医療を受けられるよう支援している。	ご家族や本人の希望される病院と連携を図り、月に1回の往診や受診を行い適切な医療を受けられる様、支援している。	入居者や家族が希望するかかりつけ医への受診をされている。また、ホームの協力医の往診や緊急時の対応など適切な医療が受けられるように支援されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々、介護にあたってのスタッフが日々の状況を把握し、異常や気づきがあれば早期に報告することで、適切な看護を受けられるよう支援している。指示簿の活用で、スタッフ間への情報を、正確に伝えている。	その日の勤務スタッフがいつもと違う異常、気づき、相談を早期で報告する事により適切な対応、看護を受ける様、支援している。指示書の活用で情報伝達している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、関係医療室と情報を交換し、状況把握に努めている。又、早期の退院が可能な様に、施設内外で研修を受けている。	ご家族や関係医療のドクターやナースとの情報交換、又、面会時に状況把握を努め出来る範囲でサポートしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階でのご家族様の希望を把握し、利用者様の状態変化に応じて、その都度、ご家族様の意向を確認し医療連携を図りながら、安楽・安心を提供している。	早い段階でご家族様の希望を伺い、利用者様の状態変化に応じて、その都度、意向を確認し医療連携を図り、安楽、安心を提供している。	重度化や終末期に関しては、入居の段階で説明されている。また、入居者の状態に応じて、その都度、家族の意向や医師、看護師、職員など関係者と話し合い、方針を確認しながら、安心して過ごせるように支援されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の施設内研修や、又、予測できるリスクに対しては、申し送り時に確認をしている。又、24時間オンコールでのナース待機とし、利用者様、スタッフの不安に対応している。	急変時の連絡先、施設内研修、又、予測出来るリスクに対しては申し送り時に確認をしている。又、関連事項のプリントの回覧に目を通している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、地域消防署の参加を得て、火災訓練を実施している。又、近隣家族も協力を得、連絡網の整備をしている。	年2回、地域消防署の参加を得て火災訓練を実地し指導を受けている。又、近隣の協力を得、連絡網の整備をしている。	消防署の協力や指導のもと、避難や消火訓練が定期的に行われている。その際は、家族や地域住民の参加もある。緊急連絡網や非常食の準備もなされ、災害対策を整備されている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(たんぼぼ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を失わないよう言葉かけや対応を心掛けている。トイレ時や入浴時にはタオルを掛け、肌の露出にも気遣っている。難聴の方が多く、トイレの声掛けが大きくなりがちである。	個人の尊厳を損なわ無い様に排泄時にトイレ内に付き添って良いか声掛けをしている。又、排泄中、肌の露出を控えタオルを掛ける配慮を行っている。	入浴やトイレなど生活場面において、誘導時の声かけや、肌の露出を控えるなど入居者のプライバシーに配慮した支援をされている。記録など個人情報はユニットごとに管理されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来やすいように、思いや希望を引き出せるように、会話の内容をわかりやすくしている。飲み物や臥床の有無など、選択しやすいものから働きかけている。	自己決定の出来る方には、つね日頃声掛けして話し易い環境を心掛けている。又、必要時にはご家族の協力を得て実現できる様、心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の性格と、その日の入居者様のペースを把握し、穏やかな生活支援を常に心掛けている。時に、業務優先となり、行動を急がせてしまう事がある。	個々の性格やペースや意志を大切にし無理強いする事なく尊重している。パーソン・セントラード・ケアに努め穏やかな生活支援を常に心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2～3ヶ月に1度の訪問美容を受けている。時に、マニキュアや口紅などをし、おしゃれを楽しんでいる。男性の方は、ほぼ毎日の職員との髭剃りを喜ばれている。	2か月に1度訪問美容を受け女性の方はカラー、カット、パーマと個人希望により楽しい時間を過ごされる。毎日、多色の中より口紅を選んで頂き化粧やマニキュアをされる。鏡を見て笑みがこぼれる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の咀嚼力や嚥下状態にあわせ、形態や盛り付け、器に工夫をし、各、テーブルに職員がつき、一緒に食事をしている。利用者様の希望により、テレビやCDを楽しみながら食事を楽しまれている。	テーブルを拭いて頂いたり食材を切られたり皿洗い等される。又食事中はスタッフと一緒に食事を摂り会話を楽しむ。オニギリにしたりと好みの食事形態で美味しく摂って頂く。	下ごしらえ、準備や片付けなどできることには関わってもらっている。個々の状態に応じた盛り付けや食事形態など工夫されている。職員と一緒にテーブルに着き、楽しく食事ができるよう配慮されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	季節の食材を用い、1日30品目を目標に地域性ある献立を提供している。食事の摂取量、排泄チェック表、必要時には水分摂取量をチェックし、毎週の体重測定で栄養価の評価をしている。	旬の食材を用いる献立を提供している。毎週の体重測定により食べる量の工夫や一人一人好みの飲み物を提供し水分確保に努める。又、病歴も視野に入れ考慮する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員付き添いで口腔ケアを実施、記録している。個人に合わせて、歯・舌ブラシ、口腔用スポンジ、ガーゼを使用し、含漱には、希釈したイソジン水を用いている。	毎食後、口腔ケアを実施し、スポンジ、舌ブラシ、ガーゼを個々に合わせて使用している。含嗽用のイソジン液を希釈し使用している。又、3回/週、義歯をポリドントで洗浄している		

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(たんぽぽ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、トイレ誘導・トイレでの排泄を行っている。パットの種類や充て方を学び工夫し、失禁や皮膚疾患の軽減を努力している。	個々の体調や排泄の変化を日々、気づき情報交換し、リハパン、布パンツ、パット、ナプキン等使い分け自立支援に努める。	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄の自立を支援されている。また、個々の体調や状態に応じて、適切な紙パンツやパット類の使用など個別の支援をされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表により排便パターンを把握し、腹部マッサージや水分補給、乳製品、食物繊維等の取り入れで自然排便を促している。必要に応じて、下剤を使用している。	排泄チェック表により個々のパターンの把握をし腹部マッサージや乳製品を取り入れ自然排泄を促している。又、必要時には下剤使用にて排便を促す。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めてはいるが、体調や気分を優先し介助している。入浴剤や職員との会話で楽しい時間となるよう努めている。個々により、入浴用車椅子を使用し、安楽な対応を行っている。	入浴日は決まっているが体調や気分を優先している。個々の体調、意志により入浴、シャワー、清拭と対応している。	入居者の希望や体調に応じて入浴が楽しめるように支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や気分、希望にあわせ、入床誘導を行っている。安心した気持ちで休息、入眠できるよう傾聴したり、照明、室温、加湿、音量調整などの環境は、個々の状態・習慣に合わせている。	個々の体調や気分、希望により入床して頂いている。安心した気持ちで休息、入眠出来る様、音量調整、室内照明、空調調整を行い静かな環境に配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに内服薬情報を入れ、いつでも確認出来る。又、臨時薬は、申し送りや指示簿記載で伝達を図り、又、バイタル表に確認印をつけて、確実に内服されるようにしている。	カルテに内服薬情報を入れ、いつでも確認出来る。又、随時、薬の変更や中止等は指示書で伝達を図る。又、服用確認印を付け確実に内服する。服用時は日付け、時間、名前を声をだし確認し誤薬防止に努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の生活歴や好みを把握し、現状の力にあった役割、レクリエーション、体操など、強制することなく無理なく支援できている。	個々に出来る日常の家事やレクリエーション、体操、ストレッチ等、強制する事無くやりがいを持って頂く様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外来受診の活用も含め、買い物やドライブ、行事など体調に合わせて、外出支援をしている。困難な方は、ウッドデッキや敷地内で季節や解放感を持って頂けるようにしている。	外来受診も含め、ドライブ、行事参加、個々に合わせ外出支援を行っている。又、困難な方にはウッドデッキや敷地内での散歩や外気に触れ解放感を味わって頂く。	入居者の意向や楽しみごとに合わせて、外食や買物、行事への参加など外出の支援をされている。また、ホームの広いテラスに出て、外気に触れたり、ホームの敷地内の散歩など入居者の状態に応じて支援をされている。	

自己	外部	項目	自己評価(ユニット名)	自己評価(たんぼぼ)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持が困難な方ばかりにて、施設で管理しているが、外出時は職員所持にて使用している。	お金所持困難の方が大多数にて施設で管理している。自己管理できる方は御家族の了解を得ている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話や手紙を出せるよう支援はしているが、困難な方が多い。年賀状に名前や一言だけでも書けるよう、レクレーションの中で支援している。	電話の依頼があれば時間帯にもよるが家族協力の元で対応している。書ける方は年賀状で挨拶文を書かれる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビングに温湿度計を設置し、快適空間の確認ができる。施設内や居室には、季節感ある飾り物や花をとりいれている。	居室、リビング、廊下、浴室等、温室計を設置し、常にチェックし温度差の無い様に快適空間に努めている。又、季節感が分かる様にテーブル上に季節の生花を飾ったり手作りの貼り絵等を飾っている。	庭には季節の木々が花をつけ、四季を感じられる景観のよい環境である。ホーム内は床暖房や空調が整い、温度や湿度の確認を行ったり、季節の花や飾り物、写真などを飾ったりと、楽しく心地よく過ごせるよう努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個性や相性に合わせ、座席を考慮している。お一人を好まれる方には、一人の座席を提供している。	個々の性格に合せ居心地の良い場所やテーブル配置、空間作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族と相談し、使い慣れた家具、寝具、衣類を持参していただいている。	入居時は家族と相談し使い慣れた家具や衣類を持参して頂く。本人様の希まれる品を購入する事もある。	写真や本、衣類など本人の馴染みのある物を部屋に持ち込んでもらい、本人の状況に応じて、部屋の環境や物の配置を整えながら、居心地よく過ごしてもらえるように取り組まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手擦りを使っての体操や車椅子自走しやすいよう環境整備に努めてます。、食前の言葉や献立、居室入口には表札、トイレをわかりやすく明記してます。	個々の出来る事を見極め、安全に楽しく自信に繋がる様に声掛けをするよう努めている。又、トイレの場所がすぐ分かる様に大きく明記している。		